

第3回 フィリピンの州立大学との 学生参加型道路改修による大学連携

期間) 2008. 2. 27 – 2008.3.3

メンバー) 木村 亮 教授

- > フェーズI(2007年2月から4月)で「土のう」で構築された歩道の現状確認
- > 「土のう」を用いた簡便インフラ整備手法の適用性について講演と
新たな大学間協力体制の構築
- > フェーズIIの歩道作成状況の確認と、技術指導
- > イリコス・ルテ州北部山岳地帯のAdams(アダムス)村の視察と村長との懇談
- > バナウエイのライステラス(段々畑)の見学



フェーズIで構築
された歩道前にて

「土のう」で構築された歩道(フェーズI) の現状確認



**2007年4月に完成した歩道、
約1年経過後も多くの学生に
利用されています。
(左写真、2008年2月の様子)**

**2007年8月、雨季での様子です(右写真)。
歩道ができたことにより、このルートは
水没せず年間を通して通行が
確保されたのでした。**



「土のう」を用いた簡便インフラ整備手法 の適用性について講演と 新たな大学間協力体制の構築



講演後の参加者
(地域行政担当者)
による「土のう」歩道
の見学

講演、デモサイト見学を通して、「土のう」を用いた簡便インフラ整備手法について
地域行政担当者によく知ってもらいます。

大学協力体制を通して、このように現地地方行政も巻き込み、農村コミュニティによる
「土のう」を用いた簡便インフラ整備が実際に実施されることを目指します。

フェーズIIの歩道作成状況の確認と 技術指導－1



プロジェクトの看板

フィリピンの人の、基金(2フェーズで
計約100万円)、技術提供者
への敬意の表れです。



フェーズIIの歩道
作成状況

フェーズIIの歩道作成状況の確認と 技術指導－2



締固めに対する独自に
工夫した道具



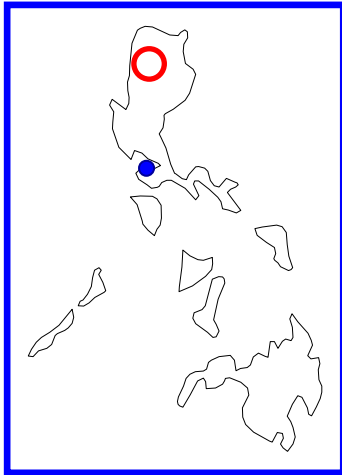
暑い中、作業に励む学生
(授業の一環で作業に従事しています)



イルコス・ノルテ州北部山岳地帯のAdams (アダムス)村の視察と村長との懇談 - 1

○:イルコス・ノルテ州
●:マニラ

州の観光局長 村長、Eric T. Bawingan氏
木村理事長



聞取調査データ

アダムス村の面積: 16,000 ha
アダムス村の人口: 2,000人
アダムス村の予算: 21,000,000 peso
雨季: 6月から12月 (約5,250万円)

南山城村の面積: 6,421 ha
南山城村の人口: 3,466人
南山城村の歳出: 21億円

参考
京都府
南山城村データ

引用: <http://www.tdb.maff.go.jp/machimura/map2/26/367/economy.html>

- ・村内交通機関: 車両6台、個人のバイク(主要道路まで片道80peso(約200円))
- ・主要道路から村までの距離: 13 km、(未舗装の山岳道路)
- ・農業: 米(ラアグ市へ車で約2時間をかけ運搬、乾燥させまた村へ戻す)
野菜は市場へ定期的に運搬できず腐らせるので、栽培中止

イリコス・ノルテ州北部山岳地帯のAdams (アダムス)村の視察と村長との懇談－2

道路状況:

村の中心部まで泥濘化部分無し
(路床が砂礫中心で粘土分がない)
右写真は排水施設が無くてきた水溜り

村の課題:

観光地化(トレッキング、川・滝)による、収入
の確保自立を目指す(観光客年間2～3千人)

要望事項:

観光センターの設立
毎年流される3箇所の木橋の改良(下写真)



雨季には吊橋をバイクで渡る

バナウエイのライステラス (世界の8番目の不思議)



カエル姿のフライ